

2011年11月17日  
日本銀行帯広事務所

## 十勝の金融経済概況

### 1. 全体感

十勝の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直しの動きが続いている。

最終需要面をみると、個人消費は持ち直しており、設備投資は持ち直しつつある。公共投資も、持ち直しの動きがみられる。こうした状況下、雇用情勢も持ち直しの動きが続いている。一方で、住宅投資は、月々の振れを伴いながら、弱めの動きを示している。

### 2. 最終需要の動向

#### (設備投資)

設備投資は、持ち直しつつある。

#### (個人消費<含む観光>)

主要小売店の売上高(9月、10社)は、昨年好調だった食料品の販売が減少したため、全体では前年を下回った。

耐久消費財の売行きをみると、家電販売がテレビの買換え需要の反動から減少したものの、乗用車販売(新車登録届出台数、10月)が、震災後の供給制約の緩和から引き続き持ち直している。

旅行・観光関連では、道内や首都圏等からの団体客の入込みが増加している。すなわち、とちり帯広空港の乗降客数(10月)は、昨年10月以来1年振りに、前年を上回ったほか、十勝川温泉の宿泊客数(9月、4社)や市内ホテルの宿泊客数(9月、8社)も、引き続き前年を上回った。

#### (住宅投資)

月々の振れを伴いながら、弱めの動きを示しており、新設住宅着工戸数(9月)は、持家を中心に、前年を下回った。

#### (公共投資)

公共工事請負金額（10月）は、年度初からの累計額では依然として前年を下回っているが、4か月連続で前年を上回っており、持ち直しの動きがみられる。

### 3. 生産・雇用・企業倒産の動向

#### (農業・食料品)

生乳生産量（9月）は、乳牛分娩数の回復を受けて、2か月連続で前年を若干上回った。乳製品生産量（9月）は、本州における生乳生産の回復等による原料である生乳の道外移出の減少から、2か月連続の増加となった。

農作物の生育状況（10月15日現在）は、大雨や台風の影響で秋まき小麦等一部の品目に遅れが見られるものの、てんさい、大豆、小豆を中心に順調である。

#### (木材)

製材品の生産量（9月）は、カラマツ材で自動車メーカーの生産回復等に伴う梱包用材、パレット向け需要が引き続き好調であることを主因に、全体では引き続き前年を上回った。

#### (電力消費)

電力消費量（9月、除く電灯）は、大口電力が電気機械、化学工業、食料品製造業で引き続き増加しているものの、省エネ意識の高まりや冷房需要の減少等から、全体では引き続き前年を下回った。

#### (労働需給)

求職・求人状況（9月、常用）をみると、有効求人数の伸びが、有効求職者数の伸びを上回った結果、有効求人倍率は0.66倍と前年同月（0.63倍）を25か月連続して上回った（+0.03ポイント）。

#### (企業倒産)

企業倒産（10月、負債額10百万円以上）は、件数3件、負債総額647百万円となり、件数、負債総額ともに前年（2件、負債額50百万円）を大きく上回った。

### 4. 金融情勢

#### (預金動向)

帯広市内金融機関の実質預金残高（9月末）は、個人向け国債償還金の歩留

まりを主因に、引き続き前年を上回った。

(貸出動向)

貸出残高(9月末)は、法人向けでスポット需要から前年比伸び率を若干高めたが、基調としては、依然として低調。

この間、貸出約定平均金利(9月末、総合)は、銀行、信金とも、前年を下回った。

(銀行券)

銀行券の動き(10月中)をみると、発行額が前年を上回り、還収額は前年を下回ったため、発行超額は55億円と前年(37億円)を上回った。

以 上